

新宮山彦ぐるーぷ第2161回

新十二支会令和4年例会参加と
鷲峰山金胎寺行場、三上山（近江富士）、立志神社訪問

◇実施日

1月8日（土）晴

前夜祭

1月9日（日）晴

良山（うしとらやま）と金胎寺行場

1月10日（月・祝）晴

三上山（近江富士）と立志神社

◇参加者 沖崎吉信、大江加予子・徳子、畑林清子、梶野照雄（2

泊） 椎木亮（1泊）

新十二支会例会参加者は山彦5名を含めて22名

今回、茂原先生も参加の予定だったが、患者さんにコロナウイルスの感染者が出たため、急遽欠席となった。

今年の千支の山は、京都府和束町の良山（うしとらやま）である。よくもまあこんな名前の山があったものだ。昨年は緊急事態宣言などで例会が中止になったので、丑と寅が一度に登れることになる。よく見つけたものだ、と感心した。

標高差も150m位で、登頂時間も一時間ほど。高齢者が多い新十二支会にピッタリの山だ。

8日の朝8時、新宮を出て伊勢道、名阪国道経由で11時半和束町に着いた。近くで昼食を済ませて会場の和束荘に入る。



会場の和束荘



前夜祭開会



伊藤さんの音頭で乾杯

堀会長は到着されていた。早朝に岐阜を出て午前中に良山の山頂まで下見を済ませてこられたそう。一から十まで全て堀会長におんぶに抱っこのお会である。何かお手伝いをさせて頂こうと思い、早めに到着した。午後3時前から順次到着される。今回も岐阜5名、山彦6名、九州6名が主で、山口1名、東京3名、京都1名が内訳だ。

大半が車で参加されているが、5名の方が電車利用なので、近くの加茂駅まで徳子ちゃんと二人で3往復してお迎えに行く。午後5時には全員が到着した。

午後6時少し前、前夜祭会場に行く。4人用のテーブルに3人が座る。テーブルの間隔も広目で、膝摺り寄せてとはいかない。カラオケも舞台も無い。コロナ禍状況では致し方ないが、やや寂しさも感じる。

沖崎が進行役となり開会宣言の後、堀会長から挨拶や事務連絡があり、山口の伊藤さんの音頭で乾杯し宴会がスタートした。

今回は畑林清子さん、石岡慎介さん、平原健史さんの3名が初参加で新加入者となる。



茶畑も真っ白に



駐車場をスタート



登山口

セレモニーも簡略化しているし会場の飾りも無く、余興も出ないが皆さん2年ぶりの再会でそれなりの盛り上がりもあり、楽しいひと時であった。別棟の部屋での二次会も早めに切り上げ就寝となった。翌9日はかなり冷え込んで、外に停めた車には霜が凍り付いてフロントガラスは真っ白になっていた。付近の茶畑も真っ白に。暫くアイドリングして氷を解かす。8時に朝食を摂り、9時前に宿を出発する。

20分ほどで大正池前の駐車場に着く。この大正池を中心に、メイソハウスやバンガロー、グラウンド、オートキャンプ場などを備えた森林公園になっている。池周遊コースを歩き、25分ほどで良山の道標から山道に入る。最初はブッシュ帯で緩やかな登りが続く。約30分で尾根の広い場所に出て休憩。左手に見えるのが山頂のよ

うで、少し下ってから登り返すようだ。ここで石岡、高橋の両氏がリタイアし、皆の下山を待つことになった。



良山に記念標識



恒例の万歳



記念撮影

15分で良山(443.8m)の山頂に着いた。駐車場から1時間20分かかっている。

20名が揃い十二支会恒例の万歳、山頂標識の設置、加えて慶祝者への祝金贈呈を行う。今回の登山は正午ごろに下山するのでお昼の弁当は無し。30分ほどの滞在で山頂を後にする。展望も無くこれと言った特色のない山だが、その名前から、なんだか記憶に残る山だ。

駐車場に戻って堀会長から、皆さんご苦勞様でした。来年はウサギ年、長野県飯田市の卯月山で開催します。と挨拶があり、各々が帰途に就いた。

帰りは石岡さんと伊藤さんが同乗され、宇治駅までお送りした。石岡さんは千葉県市川市在住で今回初参加、83才、来年も参加し

たいと目標が出来て有難い、励みになる。とのお言葉を頂いた。
お二人を降ろした後、平等院を見学して大津市瀬田のホテルに向か
った。梶野、椎木の両名は良山から30分ほどの距離の鷲峰山金胎
寺の行場へ向かわれた。梶野君とは夕方、瀬田のホテルで合流した。



御上神社をスタート 住宅のすぐ傍が登山口



割岩を通過する

10日は4人で三上山(近江富士)に登る。ちょうど一時間で登
頂できるが、頂上付近は岩場で、割岩という狭い岩の間を通過する
場所もあり、中身の濃い一時間だった。11時過ぎに下山し御上神
社にお参りして、久しぶりの立志神社へ行く。奥さんとご長男の伊
富喜浄氏に出迎えて頂き、大変お喜び頂いた。
近くで昼食を摂り梶野君と別れて新宮に帰った。
(記：沖崎)



琵琶湖がよく見える



三上山山頂



立志神社

行動タイム

1月9日：駐車場09：18→09：30 大正池グリーンパーク09：44登
山口→10：11 良山山頂11：00→12：26 駐車場
1月10日：御上神社08：40→08：47 登山口→09：20 割岩→09：
57 三上山山頂→11：00 御上神社→12：25 立志神社

鷲峰山金胎寺の行場巡り

鷲峰山(じゅうぶさん)という名は昔から知っていたが、奈良県に
あるものと思い込んでいた。新十二支会の良山(うしとらやま)だ
けでは物足りないので、近くの山を探すと、すぐ傍に鷲峰山があつ
た。ネットで調べると、役行者が開いたとされる行場があり、北の

大峰と呼ばれているらしい。行場巡りは2時間なので、昼過ぎから歩いても大丈夫なようだ。前日に「鷲峰山に行きませんか？」と新宮組に打診したが、誰も行かないという。広島の椎木さんだけが興味を示してくれた。



金胎寺山門



西覗



胎内潜

長山から下山したのが12時30分、皆さん高齢なので思いのほか時間が掛かってしまった。新宮組と分かれて椎木さんと二人で鷲峰山の金胎寺へ向かう。林道で金胎寺のすぐ下まで入り、歩き出す。金胎寺の山門までも車で登れるようだ。寺務所で入山料300円を支払い、案内図を受け取って行場を目指す。約1kmはごく普通の山道で、長山と同じように岩は見当たらない。行場の辻を過ぎると下り基調となり、岩が目立ち始めた。最初に東覗がある。次に西覗があるが、どちらも木が茂って谷底は直接見えない。東覗と西覗の間に岩壁をトラバースする所があったが、道幅が狭く、前鬼裏行場の屏風の横駈以上に緊張した。行場巡りは一旦沢まで降りて、違うル

ートを登り返すようになっていく。谷底の20mほど上に胎内潜がある。



五光の滝



鐘掛のクサリ場



蟻の戸渡

狭くは無いが急な下りになっていくので、滑らないように注意が必要だ。沢に降りたところに千手の滝がある。高さ15mほどの岩を伝い落ちる滝で、水の流れが複数に分かれている。分かれて広がっている所から千手と付けたようだ。右岸を高捲きして下った先に五光の滝がある。高さは30m弱で、一枚岩の中央部を水が流れ落ちている。落ち口に不動明王の石像が祀られていた。滝行が行われるのだろう。しばらく下り左岸に渡る。300mほど下って再び右岸に移り、登りが始まる。ここから標高差約250mの殆どが岩場だった。岩は乾燥していて滑ることは無かったが、手掛かりや足掛かりは多いとは言えず、少しオーバーハング気味な箇所もあって、登りのスピードはかなり遅くなった。クサリは鐘掛に設置されていた

が、クサリは使わず捲き道を選んだ。平等岩という一枚岩にもクサリがあったようだが、事故があつてクサリを撤去したらしい。行場の最後に蟻の戸渡があるが、蟻どころか象でも通れるような広い尾根だった。ちょうど2時間で行場巡りを終えて金胎寺に帰ってきた。

行動タイム

金胎寺 13:19 → 13:36 行場の辻 → 13:48 西硯 → 13:58 胎内潜 → 14:12 五光の滝 → 14:17 護摩壇 → 14:20 鐘掛け → 14:57 行場の辻 → 15:14 金胎寺



役行者木像



お堂で勤行して車に戻った。金胎寺の行場は大峯の行場以上に厳しい所だった。下りはさほど危険ということはないが、日陰で苔付きの岩が多く、滑ることを前提に歩く必要がある。登りは基本的な三点支持を確認しながら登らなければならない。岩になれていない人や高所恐怖症の人は行かない方がいいだろう。今日帰るといふ椎木さんを宇治駅まで送って、宿泊先の瀬田駅前に向かった。午後4時の指定席を買っていた椎木さんは、宇治駅が午後4時前だったので、指定席券が無駄になってしまった。お詫び申し上げます。

(記；梶野)